

図－1の植物はあちこちに見られるだろうが、「エンレイソウ（延齡草）」という。健康長寿を暗示するいい名前である。3枚の葉、3枚のがく片、3枚の花弁などの三数性が特徴である。山形市内の県立公園「悠創の丘」（31.1ha）の中で撮影したがとある一部にある。

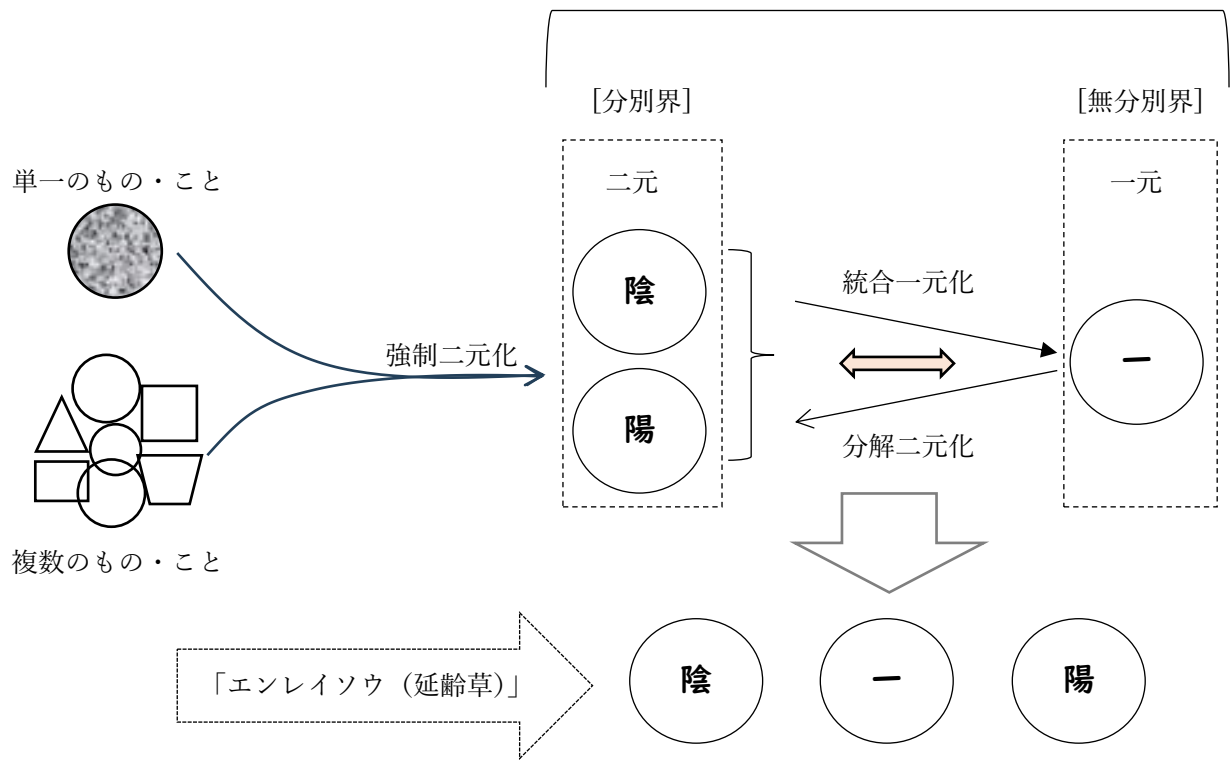
「三・三」に着目する。老子等による宇宙（地球）創成物語において、「一は二を生じ、二は三を生じ、三は万物を生ずる。」というストーリーがある、「三は万物を生ずる基点」になる、「三が（は）万物萌芽」という訳である。この万物草創と「エンレイソウ（延齡草）」が繋がっているような気がする。 それについて図－2を以って解いて行くことにする。



図－1

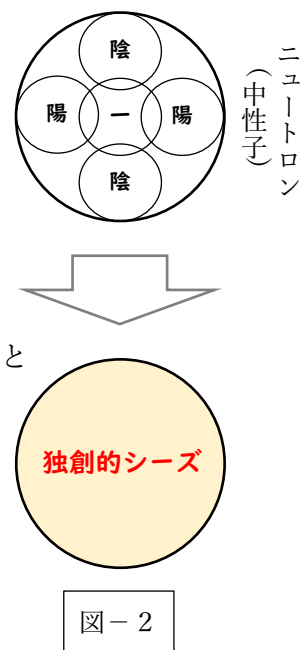
私が特に意識している日常の思考回路である。 単一の「もの・こと」（総ての事象という意味）は、陰陽二元化に分解し、複数の「もの・こと」も、陰陽二元化に分類・分解し、強制的に、あえて、陰陽因子が衝突する対立構造を作り上げる。そのこのままだと、矛盾、自家撞着、支離滅裂の精神疾患を引き起こす。（・・・前提としての「一^{いつ}」とは、陰陽のない無分別界、無境界、すなわち、宇宙創成原初を意味する。・・・） その対立を統合一元化視点で見直す、次に逆に、「一^{いつ}」をあえて分解し二元化の視点で戻す、この時のステージは雑味のない純粹二元に磨かれたものになる。すると、陰陽の特徴・特有性・個性が際立って来る、違いが明瞭に映し出されて来る。その認識の上で、また統合一元化の作用を図る、さらに、戻して分解二元化を図る・・・この統合・分解を回す、繰り返すとまったく新しい「もの・こと」、すなわち「多様性・独創的^{（種）}シーズ」が萌芽・成長することになるだろう。

「もの・こと」を二元と「一^{いつ}」でごちゃ混ぜシャッフルし、中性化を図るとまったく新しい独創的な「もの・こと（個性）」が生まれるというものだろう。 世に言う独創的なものは、何かに拘ったり、一方に偏ったりする思考回路からは生まれないというのは至極当然のこと。



したがって、思想信条・主義主張——思考回路の精神構造が一方的な方向に偏って塩漬け状態になっていると、このような柔軟性が発揮されないことになる。柔軟性がなく硬直的であれば、いくら柔軟性といっても、偏った一分野での考え方でそこに留まることになるだろう。 よって、共産党とか、自民党とか、その他政治政党にドブプリの政治家はどこか胡散臭い、また、何とか「宗教」に属する宗教家もどこか胡散臭いと見えて来る。

【Zigzag-memo No08】に記述したとおりに、空海は『中道正観』を説いたが、まさに本件テーマと通底するものを感じる。従来概念の陰陽二元を合わせた中性（娑婆界の中和は妥協という）ではなく、「一」を合わせた三者統合の新しい中性概念の中にこそ真理が見えて来る。



「三・三」づくめの「エンレイソウ (延齡草)」、それも、葉は三方に末広がりながら上を向きつつも先端は下向きに伸び、「三・三」の調和の美しさを表現している「エンレイソウ (延齡草)」は、私に上記のようなことを訓えてくれたのである。

“ 何事もエンレイソウの三すくみ 人道論す融和の妙 ”

(end)